



AMBITION #009  
平林佛壇店  
宮殿師(くうでんし)

# 余迷縫

## 紹介企業情報/平林佛壇店

■住所 岡崎市中岡崎町5-11  
■URL —  
■勤務時間 8:00-19:00  
■休日 水曜日

アンビ  
シャス的

### なるためには

- 必要資格 / 特になし
- 主な進路 / 高校卒業→仏壇メーカーに入社→宮殿の基礎を学ぶ→宮殿師のもとへ修業に入る→10年の下積み→宮殿師

「昔からものを作るのが大好きで、プラモデルや釣りに使うルアーなどを自分で作っていました。親父が宮殿師だったこともあり、ものをつくる環境が整っていたんです。作業場が遊び場みたいな感じでしたね。高校卒業と一緒に、親父にお願いして宮殿師の修業を始めました」

— 仕事について —

「学生のときから親父の手伝いをしていました。型紙に沿って木に鉛筆で線をなぞったり、部品を製作する下処理などを手伝いました。高校卒業後最初に教わったのは砥石で刃物を研ぐ作業です。最初は上手に研げません。自分で研いでみて、親父に研ぎ直してもらうという繰り返しでした。切れるように研ぐのはもちろん、切れ味が長持ちすることが重要なんです。徐々に体に染み込ませていく感じでした。ほかにも、鋸のこぎり)、鉋(かんな)、彫刻刀(彫刀などの使い方も教わりました)」

### 仕事内容を簡単に教えてください。

「仏壇の中で、仏様が入る場所のことを宮殿と言います。その宮殿を作成する仕事です。仏壇屋さんから発注をいただいて製作をします。宗派にもありますが、東本願寺や西本願寺などの宮殿をそつくりそのまま真似て製作します。それがみなさん性よりも、いかに忠実に真似るかが宮殿師として大切なことだとぼくは思います。ひとつ宮殿を作るのに、約1ヶ月半かかりますね」

— やりがい —

「仮壇屋さんから、「この宮殿はいい」と言われたときにやりがいを感じます。あとは、「お客様が宮殿を褒めてたよ」と言う声を聞くのもうれしいですね。お客様からの褒め言葉は、何事にも代えがたいですよ」

— 宮殿製作の工程を教えてください。 —

「木を十法通りに切る『木取り』。紙に合わせて木に線を引き、木工ミシンで切り抜く『削り』。彫刻刀を使って絵柄や模様を彫る『彫り』。約千個の部品を組み立てる『組み立て』。この4つの工程に大きく分かれます。最初は、宮殿の中でも見えにくい部品の製作から任されます。ぼくの場合は、みつ瓦という部品の製作を任せされました。自信をもつて一連の工程ができるようになるには、10年ほど経験が必要ですね」

— 伝統産業の仕事は、後継者不足だとお忙しいところ、ありがとうございます。 —



ひら ぱやし ゆう じ  
**平林祐二**さん

昭和45年生まれ

・出身高校 岡崎城西高等学校

18歳 ものを作るのが大好きで、宮殿である親の仕事の手伝いも積極的に行う。

↓  
28歳 刃物の研ぎ方に始まり、様々な宮殿師の仕事、伝統技術を学ぶ。

↓  
43歳 「この宮殿はいい！」という一言のために、日々、宮殿の製作に取り組む。



— なるためには —

「職人に弟子入りするか、仏壇メーカーに就職するしか道はありません。仏壇メーカーで宮殿の基礎を勉強してから、狭き門である職人の世界に飛び込む方がいいと思います。学生時代やりたいことがまだ分からぬ人は、いまやっていることを続けてください。辞めるのは簡単、続けることが大事なんです。新しいことを始めるのはもっと大事。やりたいことが見つかったら、勇気をもつてそれに挑戦してください！」